

# 平成28年度 木曾三川下流地区広域観光連携協議会

## 弥富視察勉強会 報告書



平成 28 年 10 月

木曾三川下流地区広域観光連携協議会 事務局

木曾三川下流地区広域観光連携協議会 弥富視察勉強会

開催日時：平成28年9月30日（金） 10:00～15:00

開催目的：木曾三川下流域の連携をPRするため、市制施行10周年を迎える弥富市で沿川自治体の観光ボランティアガイドが一堂に会し、「弥富金魚」を支えてきた生産者、普及発展に尽力する事業者による講話を通じて、日本の夏の美を彩る金魚の魅力や歴史・特徴について学ぶ。

開催内容：

9:45～ 観光ガイド連携発足式（弥富市総合社会教育センター）

10:00～ 視察勉強会開会、あいさつ（弥富市長、木曾川下流河川事務所長）

10:15～ 講話

「新品種作出～生きた芸術品を造る」

- ・長年、金魚の品種改良等に取り組みられてきた深見養魚場の深見泰範（ふかみやすのり）氏より、新品種開発にあたっての苦労や工夫について講話を頂きました。

「日本の文化を支える弥富金魚」

- ・弥富市の代表的な産業である金魚生産について、弥富金魚漁業協同組合の代表理事組合長 伊藤恵造（いとうけいぞう）氏より、金魚生産の歴史や流通の仕組み、組合の活動状況について講話を頂きました。

11:15～ 郷土料理試食

- ・代表的な郷土料理であるボラ雑炊を試食しました。

12:30～ せり市視察（株式会社日本金魚卸売市場）

- ・金魚のせり市の実施状況について視察頂きました。

13:30～ ボランティアガイド交流記念ツアー

- ・弥富ふるさとガイドボランティアの案内により、弥富市の文化財等の視察ツアーが実施されました。

15:00 解散（弥富市総合社会教育センター）

## 1. 観光ガイド連携発足式

弥富市、桑名市、海津市、愛西市の観光ボランティアガイドが連携し、地域活性化に向けた観光連携を図っていくため、視察勉強会開催に先立ち、観光ガイド連携発足式が執り行われました。

服部彰文弥富市長、飯野光則木曾川下流河川事務所長、「海津市ボランティアガイドの会ふる里おもてなし隊」、「あいさいボランティアガイドの会」、「桑名歴史案内人の会」、「弥富ふるさとガイドボランティア」の各会長等の参列のもと、木曾三川下流域の広域観光連携を推進するため連携発足式を行いました。



弥富市総合社会教育センター1階ロビーにて

## 2. 開会、あいさつ

観光ボランティアガイドと関係者 79 名の方に参加頂き、弥富市総合社会教育センター 3F 和室を会場として、視察勉強会を開催しました。

開会にあたり、弥富市長、木曾川下流河川事務所長により、開会のあいさつを頂きました。

### 弥富市 服部市長あいさつ

弥富市は今年で市制 10 周年となります。弥富と言えば金魚ということで、今日は弥富の金魚をご覧頂きたいと思っています。弥富では日本で見られる全ての品種が揃っており、愛知県の水産試験場とタイアップして品種改良にも取り組んでいます。また、新しい金魚の見せ方として、今年は金魚サミットの開催を予定しています。

今日はゆっくりと弥富市を見て頂ければと思います。



### 国土交通省木曾川下流河川事務所 飯野所長あいさつ

河川は大災害もありますので、安全・安心というのが大切ですが、この地域にしかない魅力というものもたくさんあります。

本日は、弥富の金魚をはじめ、こんなに魅力のある地域だと情報発信して頂くことで、地域の活力にもつながっていきますので、皆様同志の交流も深めて頂ければと思います。



### 3. 講話

#### 1) 「新品種作出～生きた芸術品を造る」

長年、金魚の品種改良等に取り組んでこられた深見養魚場の深見泰範氏より、金魚の品種改良における苦労や工夫について講話を頂きました。

深見さんには、長年、新品種の開発に取り込んでこられ、今回は桜錦、青ランチュウの開発に関わる話について、講話を頂きました。

育成する池の違いにより性格が異なる金魚が生まれるということで、コンクリートの池だと品の良い都会的の女性のイメージ、土の池だと田舎の健康的な女性イメージになるといいます。

また、良いランチュウは、目先のこぶがあることが一番といいます。





## 2) 「日本の文化を支える弥富金魚」

弥富市を代表する産業である金魚を知ってもらうため、弥富金魚漁業協同組合の代表理事組合長 伊藤恵造氏より、生産の歴史や流通の仕組み、組合の活動について、講話を頂きました。

弥富の金魚は、文久年間（1860年頃）に、大和郡山からやってきた金魚行商人が弥富に立寄り、持ち込まれた金魚が養殖の基になったと言われています。

昭和42年に市場ができ、金魚の生産数は増加して昭和50年代にピークとなりましたが、その後は宅地化や需要の減少等により減少しつつあり、現在は市内の約66haの養殖池で年間約1,200万匹の金魚が生産されています。

弥富には、日本にいる金魚の全品種がそろっているという特徴があります。弥富の金魚を知ってもらうため、組合では金魚日本一大会や金魚の学校等の取り組みを行っており、11月にはやとみ金魚サミットが開催されるということです。





#### 4. 郷土料理試食

昔から郷土で食されていた郷土料理の魅力を再発見してもらうため、昼食は、地域の代表的な郷土料理である「ボラ雑炊」の試食を行いました。

木曾三川下流域の水郷地区では、かつては川の幸を活かした郷土食が親しまれており、ボラ雑炊は、昔から農家の寄り合いの席には必ず出された料理でした。しかし、高度成長期に土地基盤整備により池や水路が埋められるなど、魚の生息条件が悪くなり、また漁業従事者も年々減少していることから、このような郷土料理を食する文化が見られなくなってきています。

今回、ボラ雑炊は、魚秀さんに協力頂き、調理して頂きました。



## 5. せり市視察

株式会社日本金魚卸売市場において、金魚のせり市の視察を行いました。  
公募の一般参加者5名も加わりました。

「かんこ」と呼ばれる木箱に入れられた金魚が次々と流され、業者が競り落とす様子を見ることができました。

弥富市内には、3箇所の金魚卸売市場があり、曜日ごとに別々にせり市が開催されています。

株式会社日本金魚卸売市場では、毎週月・水・金曜日にせり市が開催されています。今回は、弥富金魚漁業協同組合さんの協力を頂き、金魚のせり市の視察を行うことができました。

市場やせり市の様子は、弥富ふるさとガイドボランティアのメンバーに説明して頂きました。







視察後には、班ごとに記念撮影を行いました。



桑名歴史案内人の会



海津市ボランティアガイドの会 ふる里おもてなし隊



あいさいボランティアガイドの会、弥富ふるさとガイドボランティア

## 6. ボランティアガイド交流記念ツアー

午後からは弥富ふるさとガイドボランティアの案内により、地域の文化財等を紹介するための交流記念ツアーを実施しました。

3班に分かれてツアーを行い、一般参加者も含めて63名が参加され、熱心に視察頂きました。

### ●ボランティアガイドツアーコース

日本金魚卸売市場→立田輪中人造堰樋門→水郷の塔→筏大橋・ふたつやの渡し→六門橋→弥富市総合社会教育センター

### ●コースマップ



立田輪中人造堰樋門



水郷の塔



ふたつやの渡し



六門橋

あとがき

今回、木曾三川下流地区の観光ボランティアガイドが連携するため、連携発足式を行うことができました。今後、関係自治体が連携し、地域の歴史文化等の資源を活かした観光連携が図られるよう、期待されます。

視察勉強会では、弥富市を対象として、江戸時代から続けられてきた伝統産業である金魚の生産をテーマとして、その魅力や歴史・特徴について学ぶとともに、郷土料理の「ボラ雑炊」の試食、観光ボランティアガイドにより周辺の文化財等の視察ツアーを行い、観光資源としての活用の可能性について考えて頂きました。

深見養魚場の深見泰範さん、弥富金魚漁業協同組合の伊藤恵造組合長には、説明について資料作成段階からご協力頂き、有意義な勉強会となりましたこと御礼申し上げます。また、弥富ふるさとガイドボランティア、弥富市関係部局の方にもご協力頂き、ありがとうございました。

引き続き、木曾三川下流地区の広域観光連携にご支援ご協力を賜りますようどうぞよろしく申し上げます。

平成28年10月吉日

木曾三川下流地区広域観光連携協議会 事務局

弥富市 開発部 商工観光課

国土交通省 木曾川下流河川事務所 河川公園課